

金澤月見光路 2025  
土田研究室 報告書  
「明日へ架けるヒカリ」

プロジェクト担当

尾中 歩

西村 茉桜

岡本 真奈

山崎 聖大朗

## 1. 月見光路 2025について

### 1.1 概要

日時：2025年10月10日、11日、12日（9日に設営）

場所：しいのき迎賓館緑地

土田研究室テーマ：明日へ架けるヒカリ

### 1.2 方針

土田研究室では、2024年1月1日にあった能登半島地震の復興祈願、慰靈のための明かりをテーマとしてワークショップを行うこととした。ワークショップを行うにあたり、日本の伝統的な文化であり、平和・回復のシンボルとされる折り鶴が候補として挙がったため、折り鶴をモチーフとして進めた。

今年は昨年度に引き続き土田研究室で作り作りのワークショップを行うこととした。作成するものは折り鶴の中で色の変化するLEDが光る「折り鶴灯り」である。また、募金活動も昨年と同様に行う。募金箱は大きめの折り鶴の中でより明るいLEDが光る仕様にした。

## 2. ワークショップで作成するオブジェについて

### 2.1 オブジェの作成手順

材料は、5cm角の高さ2cmの黒い箱、3mmの砲弾型LEDライト、拡散キャップ、コイン型電池、コイン電池が2個入る電池ケース、一辺15cmのグラシン紙の折り紙、クレジットラベルである。以下にオブジェの作り方を示す。

まず、下準備である。まず、電池が入っている個包装をカッターを使って開け、ケースに設置できるように準備しておく。また、パンチプライヤーを用いて箱の中央に一か所だけ直径2.5mmの穴を開けておく。

ワークショップで実際に参加者が行った過程を以下に示す。受付で人数を確認して人数分の折り紙、箱、LED、LEDキャップ、ボタン電池2つを渡して席に案内する。まず、どのようなものを作るかを簡単に説明して、折り紙で鶴を折ってもらう。参加者が折り鶴を折ってもらっている間に、スタッフは次のステップに向けて準備を行う。その準備とは、LEDに付属している導線の+と-の長さをペンチで切断して調節し、ボタン電池を入れておき、拡散キャップを装着することである。ただし導線を切る際は、安全のため飛び散らないよう、あらかじめマスキングテープをつけて、その上から切断する。導線の+は長めに残して切り、-は短めに切る。折り鶴が作り終えたら次に、参加者に箱を折り目に沿って組み立てもらう。小さいお子様の場合は、スタッフが判断し参加者ではなく、スタッフが率先して行う。そしてLEDを事前に箱に開けた3mmの孔から突き出して、折り鶴と貫通させたLEDの箱の上にボンドで接着する。最後に箱の下面に土田研究室のクレジットを張り付けて完成となる。



直径 2.5mm で穴を開けるパンチプライヤー



マスキングテープの上から切断する様子

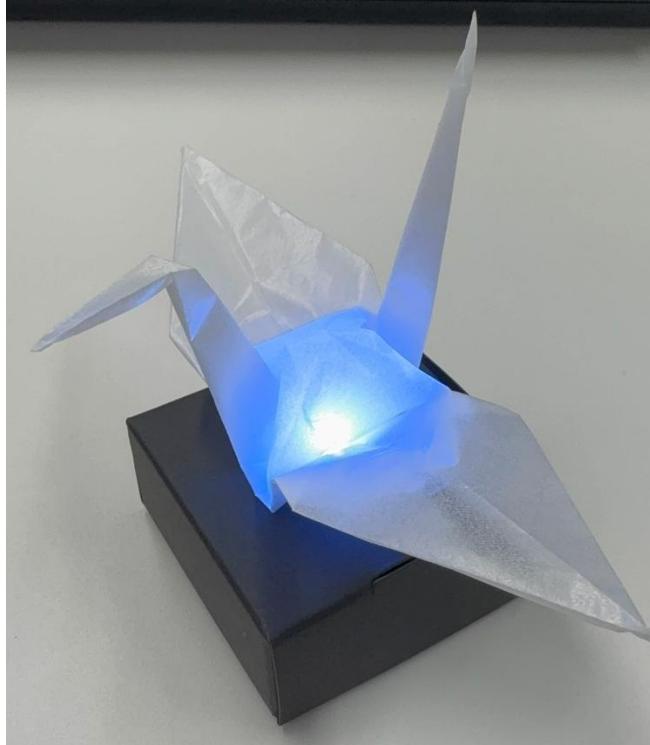


写真 1 オブジェ完成品とクレジットラベル



### 3. 事前準備

### 3.1 当日までの過程

当日までに何をすべきか案出しとテーマ決め (写真2を参照)

↓

募金箱と、募金箱の上に置く大きめの折り鶴の作成 (写真3を参照)

↓

### ポスター作成 (写真4を参照)

↓

当日に必要な持ち物等の下準備 (写真5を参照)

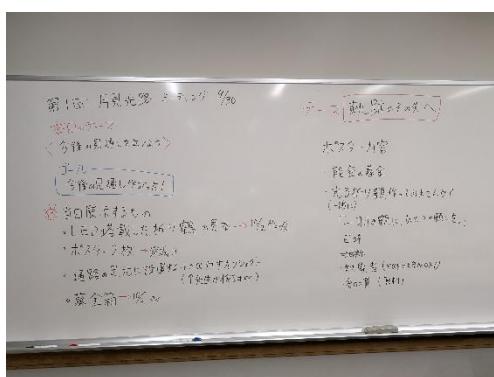


写真2



### 写真3 (1)



写真3(2)



写真3 (3)



写真 3 (4)



写真3(5)



写真4（1） WS呼びかけポスター



写真4（2） 募金呼びかけポスター

#### 月見光路 2025 土田研 【持ち物リスト】

大きく分類すると  
・テント系  
・折り紙系  
・スタッフ系  
・募金箱  
・ボスター系  
・その他備品  
に分けられる

- ★募金系
  - ・募金箱（大きめの折り鶴付属）
  - ・
  - ・
- ★ボスター系
  - ・S字フック 2つ
  - ・木材の立て掛けで置く三脚のやつ
  - ・光る額縁 2つ
  - ・ポスター 2つ
  - ・
  - ・
- ★その他備品系
  - ・メジャー
  - ・道具箱（ハサミ、穴あけパンチ、ホッチキス、カッター）
  - ・台車 2つ
  - ・除草シート
  - ・箱ティッシュ
  - ・ネジ開けるドライバー
  - ・ビニールテープ
  - ・紙テープ
  - ・ゴミ袋
  - ・毛糸
  - ・頑丈なヒモ、ベンチ（緑色の袋に入ってる）

★折り紙系
 

- ・トレーシングペーパー
- ・黒い箱（手のひらサイズ）
- ・LEDランプ
- ・LEDランプカバー（拡散キャップ）
- ・LED電線（配線）
- ・木工用ボンド
- ・明日に架けるヒカリシール
- ・ボタン電池
- ・折り鶴の折り方説明書

★スタッフ系
 

- ・首から下げるカードケース（スタッフパス）
- ・首から下げるA4の宣伝ポスター（募金促す用）
- ・月見光路のバーカー（まだ持って行ってない人用）

写真5 持ち物リスト

## 4. 月見光路設営日

### 4.1 概要

日時：2025 年 10 月 9 日(木)

- 13:00

金沢工業大学八束穂キャンパス(学生 13 人・土田先生 計 14 名)

- 15:30～18:30

会場設営

<主な活動内容>

- 用具車から荷物の運搬
- テントの組み立て
- 机・椅子の設置
- 照明の設置
- タコ足配線の固定
- 展示用オブジェの設置
- 土田研ワークショップのラジオによる取材（山崎）



ラジオ収録の風景

### 4.2 改善点

- 砂利道に机および椅子の設置を行う際に、芝生サイドに寄せすぎてしまい、芝生サイドに入った途端に地面が傾斜していて歩きづらく、参加者の席の移動の道幅が狭くなつたため、移動スペースをもう少し考慮して広く確保しておくべきだと考える。



写真 6 (1) 設置様子



写真 6 (2) 設置様子



写真 6 (3) 設置様子

## 5. 月見光路当日

### 5.1 概要

日時 2025 年 10 月 10 日(金)～2025 年 10 月 12 日(日)

○2025 年 10 月 10 日(金)

・ 16:00

しいのき迎賓館前集合(学生 15 人・土田先生 計 16 人)

・ 16:00～17:00

会場設営

・ 受付は 2 人で行い、1 人は受付、もう 1 人は材料準備を行う体制にした。

・ 17:00～20:00

ワークショップ開始

<ワークショップの流れ>

①受付で参加者に折り紙、箱、リチウム電池を渡し、オブジェ作成場所に進んでもらう。

②作成場所にいるスタッフと共にオブジェの作成を行う。

<ワークショップ参加者>

・ ワークショップ参加者… 189 名

・ 20:00～20:30

片付け



写真 7 (1) 現場の風景



写真 7 (2) 現場の風景

○2025年10月11日(土)

・16:00

しいのき迎賓館前集合(学生13人・土田先生 計14人)

・16:00～17:00

会場設営

・17:00～20:00

ワークショップ開始

<ワークショップ参加者>

・ワークショップ参加者…253名

・20:00～21:00

片付け



写真8（1） 現場の風景



写真8（2） 現場の風景



写真8（3） 現場の風景



写真8（4） 現場の風景



写真8（5） 現場の風景



写真8（6） 現場の風景

○2025年10月12日(日)

・16:00

しいのき迎賓館前集合(学生14人・土田先生 計15人)

・16:00～17:00

会場設営

・17:00～20:00

ワークショップ開始

<ワークショップ参加者>

・ワークショップ参加者…310名

・20:00～21:00

撤収作業



写真9（1） 現場の風景



写真9（2） 現場の風景



写真9（3） 現場の風景



写真9（4） 最終的な設置レイアウト

## 5.2 当日3日間の参加者最終結果

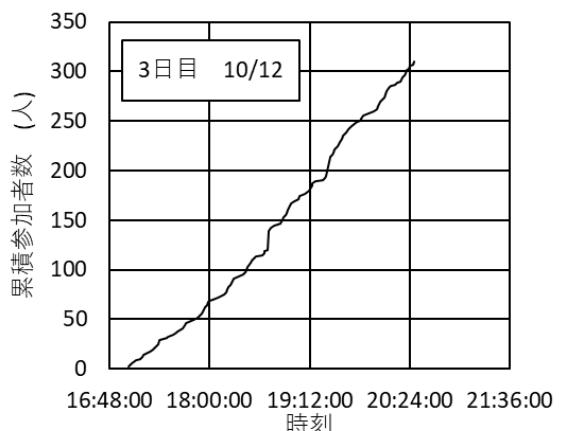
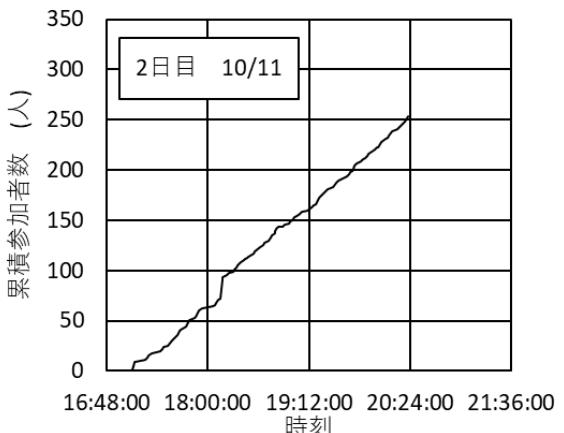
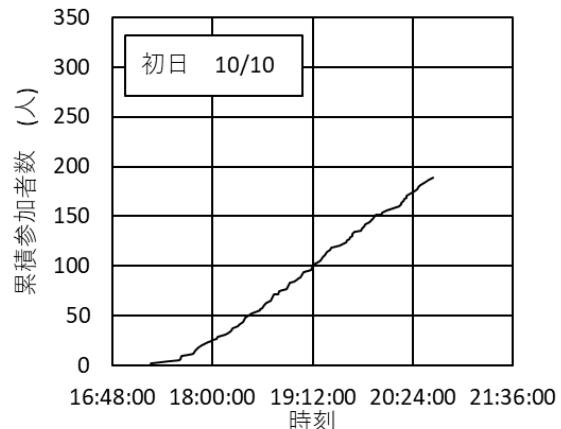
ワークショップの参加者数は、最終日に向けていくにつれて増えていくようになった。これは、初日では分からぬ事が多く、一つ一つの作業に時間がかかるてしまい、その結果、一人当たりに教える時間が長くなることでなかなか接客に時間がかかってしまったため、初日は少ないと考える。そのため、日が経つにつれ、だんだん慣れて効率よく作業を進められるところから、参加者人数が増えたと考える。

3日間、集客力が大いにあったが、どの日も、最後は時間のため、お断りすることがあった。少しでも多くの人に参加してほしいと思ったため、テントの数やスタッフの数を増やして、もっと多くのお客様に体験させて能登への周知や想いを増やしていきたいと思った。昨年度のワークショップの途中で材料が足りなくなってしまったという反省を活かし、今年度は多くの材料を用意して行い、より多くの人に参加してもらったことには満足している。

時刻による参加者数の変化について注目してみると、終了の時間帯に近づいていくほど、参加者数が多くなっている。これは、夕方から夜にかけて外が暗くなればなるほど、折り鶴の光やポスターの明かりが目立つようになり、集客効果がより得られることと、受付の前で多くの人が並ぶことで、気になって自分もやってみたいと思う心理的な集客効果があると考える。

ワークショップ参加者数

日程	人数(人)
10月10日	189
10月11日	253
10月12日	310
総計	752



参加者の居住地は、約8割は金沢市を含む石川県内の人だということが分かった。また、3日間で訪れた外国人は、合計59名であり、全体の約1割弱を占める。近年、金沢の観光客は増加しており、金沢の街中でも外国人をよく見かけるが、こういったワークショップのような日本の伝統文化に触れるのには、興味があるも、訪れるのには敷居が高いと考える。もっと多くの外国人の方に触れてもらうためには、外国人に向けた英語表記を増やしたり、スタッフが英語で話しながら集客したり、気軽に立ち寄ってくれるような工夫が大切だと感じた。

海外参加者の出身地を見ると、南米やアフリカが居なく、ヨーロッパや東南アジアの方が多かった。折り鶴を作る文化がない外国人から、折り鶴を作るのが難しかったという声を多数いただいたが、完成した際は満足しており、嬉しかった。

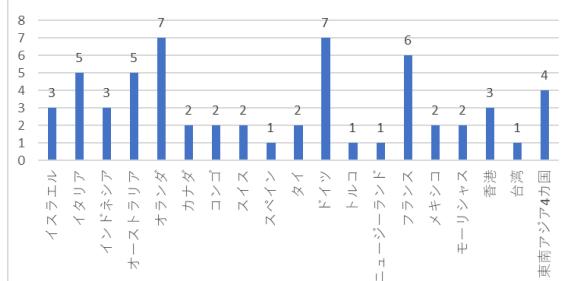
今回のワークショップにあたって、情報入手経路を直接参加者に聞いて集計してみたところ、「ネット、SNSなど」を活用した人数が圧倒的に多かった。今の時代では、インターネットが普及しているため、今後もSNSを活用した宣伝を行うと集客力が上がると考える。

能登半島地震復興支援の募金を集計した結果、総額は35072円であり、前年度のワークショップと比較するとかなり減少した。能登半島地震からかなりの月日が経つことで募金箱という存在を日常的に意識して見る機会が減り、震災について想ったり考えたりする時間が少なくなってきたことが考える。ワークショップを行う上で「なぜ無料なのか」と聞くお客様があり、無料でいただけるその対価として募金をいただいたこともあった。

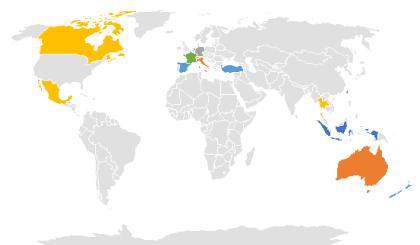
参加者の居住地

居住地	人数(人)
金沢市内	438
石川県内	136
石川県外	119
日本国外	59
総計	752

海外参加者の内訳



世界地図で見る海外参加者の出身地



情報入手経路

情報経路	人数(人)
ネット、SNSなど	308
たまたま通りがかって	147
過去に来たことがある	114
関係者がいる	109
TV・ラジオ・新聞	52
大学チラシ・ポスター	20
口コミ(リアル)	2
総計	752

能登半島地震復興支援募金集計

種別	数	金額
¥1,000	17	¥17,000
¥500	11	¥5,500
¥100	103	¥10,300
¥50	24	¥1,200
¥10	93	¥930
¥5	18	¥90
¥1	51	¥52
総計		¥35,072

### 5.3 改善点

受付後に、テーブルの空き待ちの列がかなりできてしまった。お客様に多くの待ち時間を与えてしまったことを反省し、より効率よく回転させていくために、テントの数、スタッフを増やすなどしてできるだけ待ち時間を見らすような工夫が必要だと感じた。

外国人に丁寧に説明したり、効率よく準備を進められたりできるよう、スタッフには事前講習会を開いて英語の伝え方や当日の動き方等を早い段階から説明すべきであった。事前講習会があれば役員以外も WS について理解が深まるし、一緒に下準備をすることで効率化を図ることができる。

また、箱のふたの開け閉めがやりにくかった。スイッチを入れるためには、箱を開けて電池ボックスを取り出さないとならないが、ふたの一部が引っ掛かり箱を傷めてしまうこともあった。独自の箱作りのためにレーザーを使わないカッティングマシン（ScanNCutDX、ブーラザーなど）を活用することも考えられる。

以下、月見光路の土田研究室の運営スタッフからコメントをいただいたメッセージを残す。

#### 〈スタッフの声〉

- ・人数が多くだったので、鶴を折ることをメインに、ボタン電池などの作業は事前に仕込んでおくと回転率があがるかなと思った。
- ・外国の方だと鶴の折り方の説明で手一杯で箱の用意など遅れること多かったので外国の方が来られた時はアシスタントで一人付けられる体制が取れればいいと思いました。
- ・お客様から、募金箱の位置が気付きにくいという意見があった。そのため、設置場所を変更した。
- ・何ヶ所か座りにくい場所があった。
- ・外国のお客さんに対してジェスチャーと簡単な英語しか使えなかった。
- ・ニッパーも数が少なかったので LED の足を切る作業も先にしておくとよかったです。お客様に対してもいい対応ができなかった。
- ・鶴の折り方を教えてると電池の用意等が遅くなってしまった。一人で 2 組教える事があって大変だった。

## 6. 総括

WS はとてもなく繁盛して売り切ることができたし、展示用のオブジェにも多くのお客様が足を止めて写真を撮ってくれたりしていたので、大成功といえると思う。

能登の震災復興に向けた募金を呼びかけ、募金箱を設置した。ワークショップ受付時に依頼し、協力者も多かった。集まった額は 35072 円となり、全額を日本赤十字社の令和 7 年能登半島地震復興支援金に寄付した。能登の復興には時間がかかると考えられる。毎年継続して実施するべきと思う。

案出しからオブジェ作成まで苦労することがあったが、お客様が一生懸命オブジェを作成している姿やお子様が喜んでいる姿を見てやりがいを感じることができた。一方で、お客様に良い対応ができなかったことや、ニッパーの数が少なくて手間がかかったことなど改善点も多く見つかった。今回の経験を今後技術者として社会で働く際に活かしていきたいと思う。